



のぐちばるごりんとうぐん  
野口原五輪塔群

野口原 別府市

市指定有形文化財（建造物）

昭和 57 年 7 月 23 日指定

昭和 56 年に野口原 3018 の 1 で発掘された 24 基の五輪塔と 1 基の宝塔。造立年代は南北朝（1336～1392）頃と推定されている。出土した 1 基の塔の中には舍利（遺骨）が発見された。

五輪塔群の包含層<sup>ほうがんそう</sup>は南北 7.20 m、東西 2.50 m にわたって、造立当時の黒色火山灰層の上に 5 層の埋没土石流が重なり、厚さ 1.20 m であった。原型のまま出土したのは 1 基のみで、他は倒れた状態で発掘されている。これは少なくとも 5 回に及ぶ朝見川や板地川の大水害で埋没したことを物語っている。

現在はこの塔群を復元して、別府アリーナの西側公園に安置してある。

（小玉 洋美）